

リアルタイム児童評価ネットワークの開発と実践

長野県塩尻市立塩尻西小学校 教諭 河西 一樹

bkasai@shiojirinishi-e.ed.jp

キーワード：形成的評価、ポートフォリオ、PDA、ASP、ネットワーク

1. 研究の概要とねらい

多様な学習形態で教えるようになってきた現在、担任だけでなく学校職員全員が連携を取り合いながら子どもを評価しその後の指導に生かすことが必要と考える。そこでASP(Active Server pages)を使い、各職員が気づいた点をすぐその場でPDA(個人用の携帯情報端末)で入力しサーバのデータベースに登録するシステムを開発してきた。

このシステムでは職員が直接子どもの様子を文字で入力するほか教科や場所や対応する指導要領の項目や目標などをワンタッチで入力できる。そしてデータベースに蓄積された情報を系統的に分析してその後の指導に生かすことができると考えた。

2. 研究の内容

- ① PDA(小型の情報端末)やパソコンからホームページを通じて子どもの教科活動、生活の様子などを個人別に入力する。(図1参照)
- ② 蓄積された情報を元に連携して児童への支援するときの参考にする。
また、通知表や保護者懇談、要録作成時の資料にする。
 - ・企画組織 利用職員 計11名
(内訳 本校 2学年2クラス、3学年1クラス、4学年2クラス、5学年1クラス、理科専科、音楽専科、養護、算数少人数2名)
 - ・蓄積データ数(2004年9月14日～2005年1月末まで)のべ800件
システムの概要

3. 成果(○)と課題(●)

- 専科教育での利用(評価情報の吟味⇒今後の指導の改善へ)
理科専科の職員による試行。児童の評価を理科の分野観点により分けられた評価マトリクスに分類した。児童の学習傾向や、職員自信の評価の傾向を分析し、その後の指導に生かすことができた。
- 多くの先生方による試用、及びデータの蓄積、試行による感想意見⇒システムの改善
企画開始直後、4学年と専科のみで始めた本企画であったが、その効果の良さが人づてに広がるにつれ「システムを利用してみたい。」という職員があり最終的には11名の職員に使っていただくことができた。システムを使った感想や意見をもとにより使いやすいシステムの改善の材料となった。
- 国語科研究授業への利用(少数数学習集団授業での形成的評価の継続⇒指導へのフィードバック)
県内教育団体主催の公開授業の際に本システムを活用した。単元のはじめから、時間ごとの児童の学習の様子やその考察を蓄積していき、次時の授業での指導計画にフィードバックさせることができた。また、公開授業当日には、その蓄積情報を資料として活用することができた。
- 個別の児童への入力、活用(少数編成授業、個別に対応が必要な児童への対応)
高学年では国語算数の少数編成授業、理科音楽の専科とクラスとして授業をすることは3分の1にも満たない、また時として、生徒指導の面から個別の対応をしていきたい児童も少なくない。
担任はそのような児童の情報をシステムに登録することで他の職員に知らせることができる。他の職員はその登録情報を閲覧することで、それらの児童への指導へと生かすことができた。
- 蓄積された評価情報を、通知表や保護者懇談会の資料として活用することができた。今まで、担任が知りえない児童の姿や、客観的な第三者からの見解を知らせることができた。
- PDAであるとなんとなく起動入力ができるが、評価情報の入力が文字情報を主体としたものであり、PDAでは慣れが必要であった。PDAにおける入力形態の改善が必要。⇒反面、Webページを見ることのできるパソコンであれば特別なソフトも必要なく利用できるため、その面で使い勝手が広がり利用したいと申し出た先生方も多くいた。
- 使う職員によって、必要とする情報の形態が違う、その職員のニーズに応じた形態の情報を供給できる柔軟なシステムの必要性を感じる。⇒意見を取り入れながら今後も随時システムの改善をしていきたい。

図1：評価入力画面